【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成27年1月15日(2015.1.15)

【公開番号】特開2013-125373(P2013-125373A)
【公開日】平成25年6月24日(2013.6.24)
【年通号数】公開・登録公報2013-033
【出願番号】特願2011-272994(P2011-272994)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　3/041　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　3/041　３８０Ｎ

【手続補正書】
【提出日】平成26年11月21日(2014.11.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
本技術の一側面は、軌跡特定部が、物体の近接または接触を検知する検知部により検知される前記物体の位置を特定することにより、物体の移動の軌跡を特定し、イベント情報記憶部が、前記軌跡を表す情報を含むイベント情報を記憶し、データ送信判定部が、他の情報処理装置から送信された前記イベント情報と、自分の前記イベント情報とを比較することで、前記他の情報処理装置に所定のデータを送信するか否かを判定するステップを含む情報処理方法である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５７】
いまの場合、電子機器２０－１の近接パネル４１により指の近接の検知が終了した時刻における位置は、ディスプレイの水平方向左側端部のいずれかの位置となるはずである。また、電子機器２０－２の近接パネル４１により指の近接が検知された時刻における位置は、ディスプレイの水平方向右側端部のいずれかの位置となるはずである。そして、電子機器２０－１の近接パネル４１により指の近接の検知が終了した時刻における位置の垂直方向の位置は、電子機器２０－２の近接パネル４１により指の近接が検知された時刻における垂直方向の位置とほぼ等しくなるはずである。電子機器２０－１の近接パネル４１と、電子機器２０－２の近接パネル４１によって、連続する指の運動が検出されるからである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７４】
この場合、図中の円７１－１および円７２－１で示される位置の座標値、および、それらの位置に対応する時刻をイベント情報に含めることができる。また、図中の円７１－２

および円７２－２で示される位置の座標値、および、それらの位置に対応する時刻をイベント情報に含めることができる。さらに、図中の円７１－３および円７２－３で示される位置の座標値、および、それらの位置に対応する時刻をイベント情報に含めることができる。また、図中の円７１－４および円７２－４で示される位置の座標値、および、それらの位置に対応する時刻をイベント情報に含めることができる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８７】
このように、連続性または同一性の有無が判定されるペアの数に応じて送受信されるデータの種類が異なるようにしてもよい。このようにすることで、例えば、操作の複雑さに応じてセキュリティを高める通信を実現することができる。すなわち、本技術では、所定の操作に対応する通信相手を認証して通信を行うことが可能となる。従って、本技術によれば、簡単な操作で通信を可能とするとともに、通信相手を認証することができる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９９】
図５の例では、やはり、電子機器２０－１と電子機器２０－２とが左右に並べて配置されており、その下に電子機器２０－３と電子機器２０－４とが左右に並べて配置されている。例えば、電子機器２０－１乃至電子機器２０－４をもちいてトランプのババヌキのゲームを行う場合、図中の矢印で示されるように、ディスプレイＡ乃至ディスプレイＤの間で相互にカードが交換されたように表示させることができる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２５】
このように、本技術では、例えば、ジェスチャの複雑さに応じてセキュリティを高める通信を実現することができる。すなわち、本技術では、所定のジェスチャに対応する通信相手を認証して通信を行うことが可能となる。従って、本技術によれば、簡単な操作で通信を可能とするとともに、通信相手を認証することができる。